

登録コード	E8007300	開講年度	2026			
授業科目	書写論				担当教員	小林 比出代
英文授業名	Theory of Calligraphy (Shosha)				副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・2時限	対象学生
講義室	教育N102講義室	教育M402講義室	授業形態	実技	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ					
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	○教育活動を遂行する上で、書写に関する専門的知識及び技能（特に板書・硬筆・小筆）を習得し、授業実践に活用できるようになる。 ○日頃書いている自分の文字を見直しながら、硬筆書写や実用書式、及び様々な教育活動を支える板書に関して、その意義や在り方を理解し技法を習熟する。
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	・硬筆書写とその教育や実用書式に関する基礎的な理論と技法について理解を深める。 ・教材提示のみならず文字指導の範書ともなる板書に関し、実際チョークを用いて黒板上に書いてみる学習を通して、書写能力の向上を図るとともに板書計画の熟知に努める。					
(5)授業計画	第1回：硬筆書写とその教育について考える 第2回：硬筆書写の基礎① 姿勢／筆記具の持ち方／チョークの持ち方／基本点画／漢字(楷書) 第3回：硬筆書写の基礎② 平仮名／片仮名／漢字(楷書)と仮名の調和 第4回：硬筆書写の基礎③ 筆順／文字群（文字の大小・行の中心・字間・行間） 第5回：板書技法の基礎① 現代と板書／チョークの扱い方の基本／板書縦書き 第6回：板書技法の基礎② 板書縦書き 第7回：板書指導の基礎③ 板書横書き 第8回：板書指導の基礎④ 板書を見やすくする工夫 第9回：板書指導の基礎⑤ 教育実習での板書の見直し 第10回：板書指導の基礎⑥ 板書に関するまとめ 第11回：学習指導要領への対応（水書用筆に関する学習） 第12回：硬筆書写の基礎④ 実用書式・手紙の書き方 / 小筆[実用書式]の基礎① 挨拶文の書き方 第13回：小筆[実用書式]の基礎② 上包み・のし袋の書き方 第14回：小筆[実用書式]の基礎③ 賞状の書き方 / 目録の書き方 授業アンケート 定期試験 なし					
(6)成績評価の方法	・提出された全課題の内容を、書写に関する専門的知識及び技能（特に板書・硬筆・小筆）が習得できているか、また、適切に書写指導を行えるか総合的に測り（50％）、授業に取り組む姿勢（50％）と併せて評価する。具体的には、硬筆書写及び板書に関する理解度はレポートによって、技能の習得度及び授業に取り組む姿勢は毎回の授業で課す提出物によって判断する。					
(7)成績評価の基準	・提出された全課題において書写に関する専門的知識及び技能を習得し適切な書写指導ができる割合が9割以上を「卓越している」、8割以上9割未満を「かなり上にある」、7割以上8割未満を「やや上にある」、6割以上7割未満を「水準にある」とし、併せて出席率及び授業に取り組む姿勢を加味する。 秀：授業内容をきわめて高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題演習・実技課題等に取り組み、高度な活動成果を示している。 優：授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題演習・実技課題等に取り組み、良好な活動成果を示している。 良：授業内容のおおよそを理解し、講義内容を理解するとともに、与えられた課題演習・実技課題等に誠実に取り組み、授業ねらいで求める活動成果の三分の一程度の達成が認められる。 可：授業内容の一部を理解するとともに、与えられた課題演習・実技課題の一部は誠実に取り組み、部分的に努力の認められる活動成果を示している。 不可：授業出席以外は可とすべき内容を満たさない。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(8)事前事後学習の内容	【事前学習】 ・次回授業までに行ってくる課題を出すことがある。当該授業で扱う内容となる。真摯に取り組んでほしい。 【事後学習】 ・各授業時間内では習得しきれなかったと考える学習内容については、次の授業までに各自補習しておく。					
(9)履修上の注意	・受講人数は施設の都合上最大24名とする ※《注1》 希望者超過の場合抽選を行い、①国語主免の4年生 ②国語主免の3年生 ③国語副免の4年生 を優先する。 ※《注2》					

(9)履修上の注意	本授業は抽選を実施する可能性が高いため、受講希望者は9月30日（水）までに受講登録を済ませること。 9月30日（水）までに受講登録をした希望者を対象に抽選を実施する。 ＊当該日以降の登録は抽選の対象としない＝抽選実施の場合、当該日以降の登録者は受講対象外となる。 →希望者超過の場合は、10月1日（木）に抽選を実施し、当日eALPS上で結果を発表する。 （一斉メールにて結果掲示の連絡をする。） ・毛筆[小字]及び硬筆の書写用具（小筆・墨・半紙・硯・下敷・文鎮・2Bの鉛筆・チョーク）を各自で用意すること。 ・水書用筆の準備に関しては授業内での指示に従うこと。 ・【教科書】の『国語科書写の理論と実践』（「書写基礎」での指定テキスト）と『高校 硬筆の練習』は第1回の授業から使用するので、忘れずに持参すること。 ・座席は指定する。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	原則としては授業時に直接の形が望ましい。個人的な相談や質問等はメール、もしくはオフィスアワーを利用してよい。対応可能な場合はその他の時間でもよい。 メールアドレス：hideyokb@shinshu-u.ac.jp 研究室電話番号：内線4073 研究室：M413
【教科書】	・『国語科書写の理論と実践』（全国大学書写書道教育学会編 萱原書房）（1,100円(税抜)） ・『高校 硬筆の練習』（小竹光夫・小林比出代・平野伸子 教育出版）（503円） ・『板書技法と手書き文字文化』（福岡教育大学 板書教育プロジェクト編 木耳社）（1,800円） ※『板書技法と手書き文字文化』については授業内での指示に従うこと。 ・必要に応じてプリント資料を配付する。
【参考文献】	・小学校書写用教科書 ・中学校書写用教科書